

第2章 ヒアリング結果の概要

全体傾向を示すとともに、ヒアリング項目ごとの回答内容を掲載しています。ヒアリング調査によって、アンケート調査では把握できない子どもの実態や要望を確認できました。

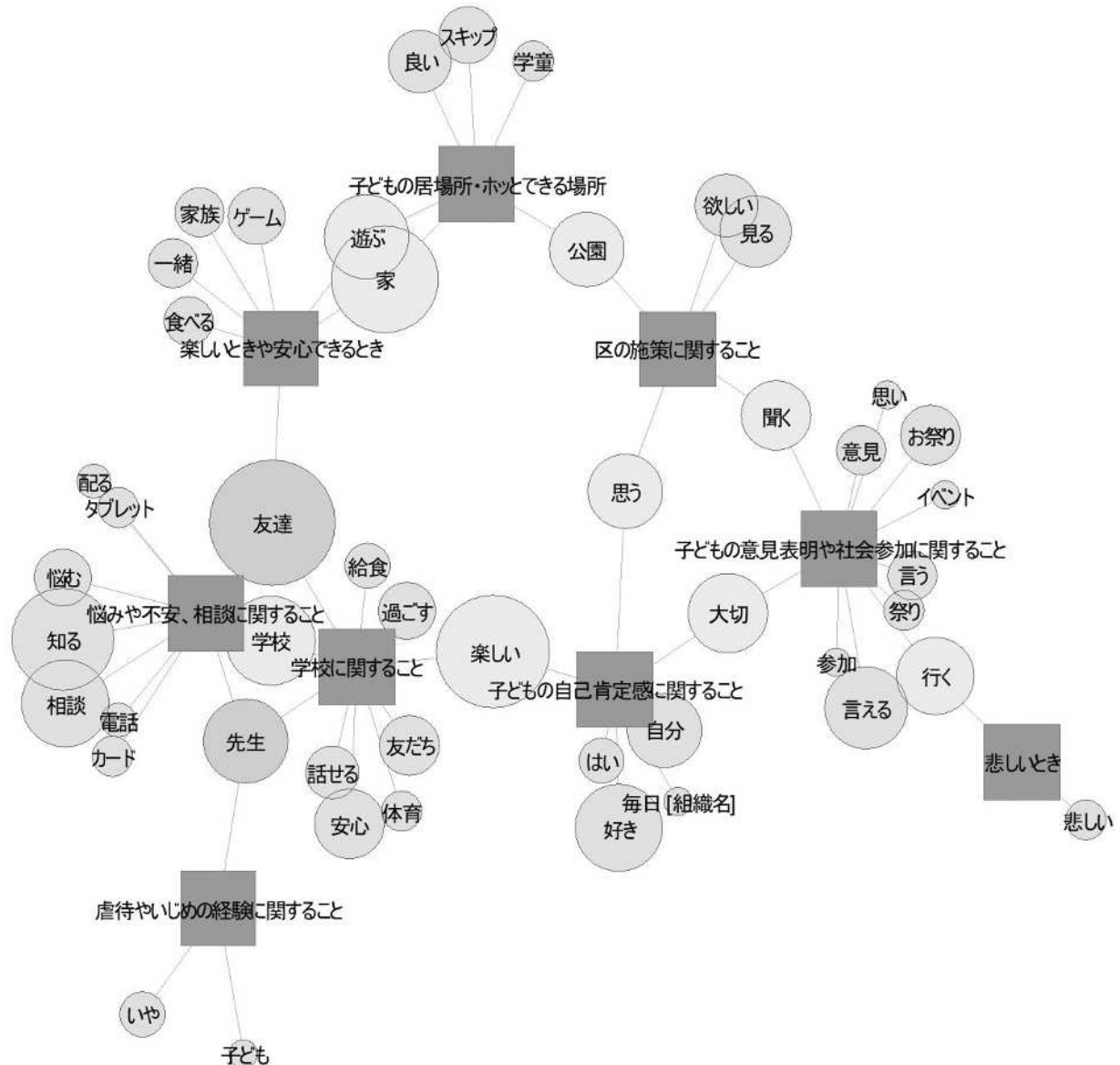
1 全体の傾向

子ども達へのヒアリングの全体傾向をテキストマイニング（KH Corder）^{*1}で、①保護者や学校との関係が良好であると思われる子どもたち、②保護者や学校との関係に課題があると思われる子どもたちについて、分析しました。

^{*1} テキストマイニングとは、自由な形式で記述された文章を自然言語処理の技術により単語や文節に分割してその出現頻度や相関関係等を分析し、有益な情報を探し出す技術のことです。

1-1 1) 保護者や学校との関係が良好であると思われる子どもたちの傾向

四角で示しているものが質問（ヒアリング）項目であり、丸で囲まれているものがそれらの質問に対する回答キーワードの分布です。「子どもの自己肯定感」は“楽しい”というキーワードで「学校」とつながり、「学校」と「悩みや不安の相談」は、“友達”や“先生”というキーワードで繋がっています。さらに、“友達”は「楽しいときや安心できるとき」と「学校」を繋ぎ、さらに“家”が「楽しいときや安心できるとき」と「子どもの居場所・ホッとできる場所」につながるといように、子ども達をいろいろな面で育成・支援している、家庭、学校、地域、区の施策が、社会全体でループのようにつながっていました。



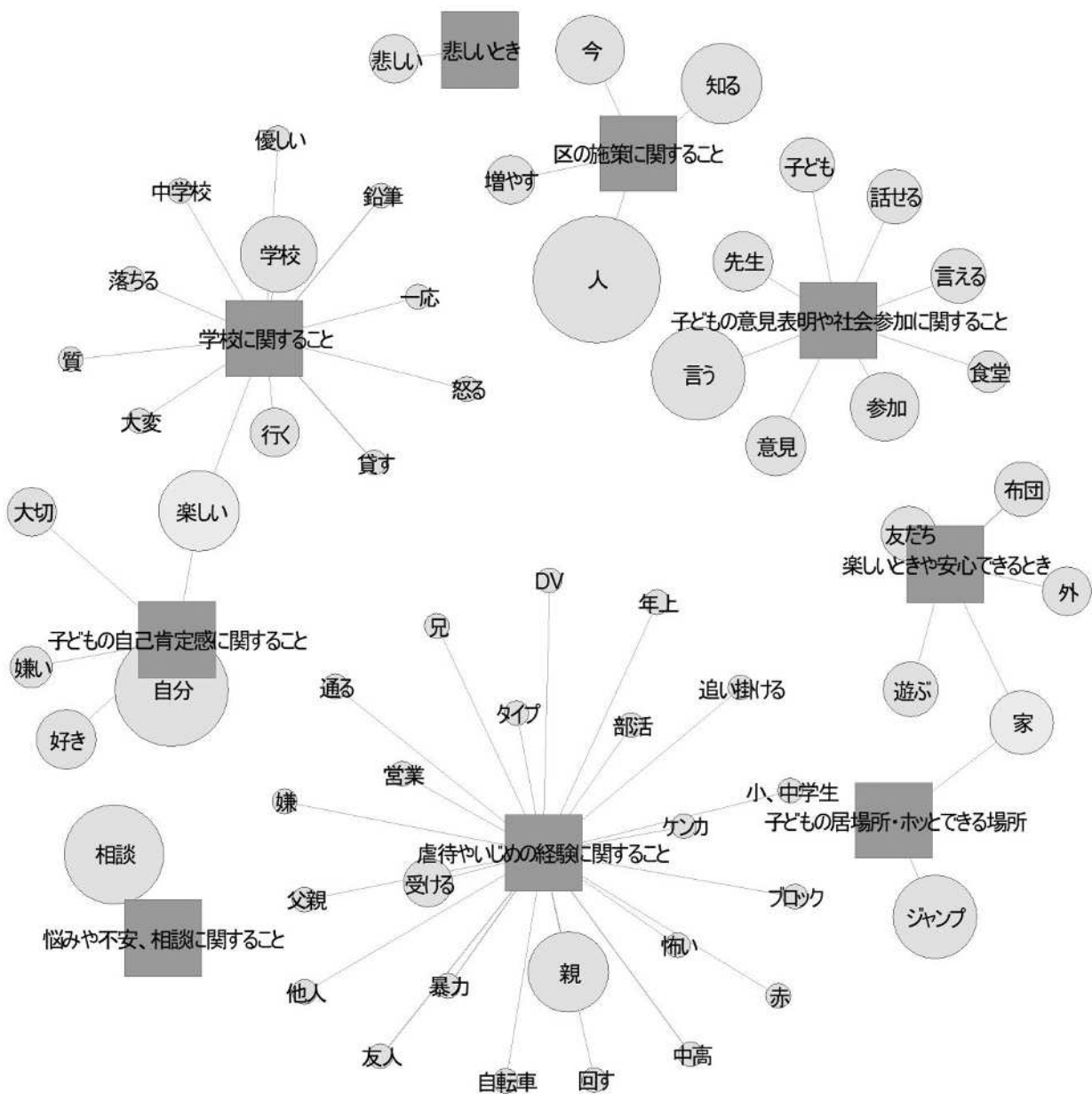
(KH Corder による分析)

1-1 2) 保護者や学校との関係に課題のあると思われる子どもたちの傾向

一番大きな特徴は、「虐待やいじめの経験」の質問に対して、多く回答がありました。

また、「自己肯定感」と「学校」が“楽しい”というキーワードで結びついていること、「楽しいことや安心できるとき」と「子どもの居場所・ホッとできる場所」が“家”というキーワードで結びついていることは、保護者や学校との関係が良好であると思われる子どもたちと同じですが、「学校」と「楽しいときや安心できるとき」や「悩みや不安の相談」が結びついていないなど、全体としてみるとそれぞれのテーマ間の結びつきが弱く、一つ一つが独立しているように見えました。

以下に質問項目ごとの回答内容を掲載します。課題のある子ども達も、自己肯定や意見表明・社会参加、子どもの居場所等に対して前向きにとらえる回答が多くありましたが、上記に見るとおり、社会全体との結びつきが弱いことがうかがわれました。



(KH Corder による分析)

2 設問ごとのまとめ

2-1 居場所・ホッとできる場所

2-1 1) 放課後、どこで過ごすか

ヒアリングを行った施設や、公園、サッカーやドッジボール、友人とのカードゲームの他、家で過ごすという回答が多くありました。特に、ほとんどの子どもは、ヒアリングを行った施設に対する肯定的な意見を持っていました。

前述したテキストマイニング結果にも表れていますが、保護者や学校との関係に課題のある子ども達においては、過ごす場所が家もしくは施設に限られていることがうかがわれます。

2-1 2) ホッとできる場所はどこか

自分の家やヒアリングを行った施設を挙げる回答が多くありました。家の中でも、家族のいるところを挙げる子もいれば、こたつや布団の中に一人であることが安心できるという回答もありました。

2-2 学校に関すること

2-2 1) 学校は楽しいか

多くの子どもが学校は楽しいと回答しました。

一方で、「勉強と先生がいなければ楽しい」、「先生が女子をひいきする」「給食を残しちゃいけないと言うけど、先生は残す」「友達に鉛筆を貸しただけで先生に怒られた」等、先生の問題点を指摘する回答がありました。不登校の子どもは、「学校は楽しくない」、「大変だった」、と回答しています。

2-2 2) 学校には何でも話せる友だちや先生がいるか

多くの子どもは、何でも話せる友だちや先生がいると回答しています。「自分の気持ちを友だちに伝えるのが楽しい」という意見もありました。

一方で、「話ができる先生や友達はいない」「いじめについては相談できない」という意見もありました。

2-2 3) 学校で休み時間や放課後に安心して過ごしているか

多くの子どもは、安心して過ごしていると回答しています。「友達に暴力を振るわれたけどケンはしなかった（やり返さなかった）」という回答をした子もいました。

2-3 子どもの社会参加や意見表明に関すること

2-3 1) 周りの大人に言いたいことを言えているか。あなたの意見や思いを大切にしてくれるか

意見を言えている子もいれば言えていない子もいます。

言えていない子の回答では、小学生の回答では、「意見を言えない。言えることはない」、「恥ずかしかったり、怖い人には言えない」、「あまり話さない、他の大人ともあまり話さない」、「あ

んまりしゃべらないから良く分からない。話をすれば話を聞いてくれる」、「心配されちゃうから言えない」、「言いにくいときもある。怒られるかもしれないって思ってしまう」など、自分から大人への意見の出し方に悩んでいる意見が多くありました。

一方で、中高生や若者では、「家族には言えないが、施設の職員には言える」、「聞いてくれる人と、聞いてくれない人がいる。だいたい聞いてくれない」、「意見を言ってもしょうがないけど、必要なことを、人を選んで聞いている」、「学校では先生とは立場が違うし、意見を言っても何にもならない。生徒会なんかでも、みんな自分の意見を言わない。言っても変わらないってのが現状」と、意見表明をおこなう事については前向きにとらえていて自分なりに行動していることや、意見を聞く側の問題点を指摘する意見が出されました。

また、LGBTQ においては、約9割の子どもが保護者との関係で困難を経験しているという調査結果があるという意見もありました。

2-3 2) 地域の行事に参加しているか

参加しているという意見が多数であり、地域の神社のお祭りや各施設のイベントに参加した経験を持っている子が多くいました。おみこしを担いだり、屋台を出したり、ゴミ拾いをしたりしてより積極的に参加している子もいます。また、ボランティアとして子ども食堂の洗い物や配布の手伝いをしている子もいました。中高生センタージャンプでは、自分達で企画をしてイベントを行ったり、地域の獅子舞に参加していたりします。地域イベントのイラストやポスターを作成したりしている子もいました。

2-4 虐待やいじめの経験に関すること

2-4 1) 周りの大人から嫌なことをされたことがあるか

無い、もしくは、無回答が多数でした。

しかし中には、「父親からDVを受けていた」、「兄からいじめを受けていた」、「親やバイト先で嫌なことをされた」、「赤の他人に自転車で追い掛け回された」、「知らない人に『お金を貸して』と言われて逃げた」という意見がありました。

また、「先生は、子どもにやってはいけないということを自分はする」、「区役所に小、中学生の時、友達の親を通じて相談したけど、何もしてくれなかった」と、先生や区の対応に対する問題点を指摘する意見もありました。

2-4 2) 友だちや先輩、後輩から嫌なことをされたことがあるか

無い、もしくは、無回答が多数でした。

しかし、「小学1～3年はあった。3年生の時、校長先生への報告が多かったようで、解決した」、「小学3年生のときに学校に行けなかった」、「たまに友達に無視されたり、『ふざけるな』といわれた」、「子ども同士で殴られて先生に病院に連れていってもらった」と、小学校低学年におけるいじめについての話がありました。また、「(日本語が話せなくて)小学生の時に差別にあった」という外国ルーツの子どもの経験もありました。

中高生以上では、「中高の部活でいじめられていた」、「何回も友だちとケンカした、暴力を受けた」、「無いわけでもないけど、何とかなっている。それも人生の経験だと思っている」という意見が出されました。

2-5 悩みや不安、相談に関すること

2-5 1) 悩んでいることや不安に思っていること

無い、もしくは、無回答が多数でした。

小学生では、友達や先生との関係、「中学生になったら友達ができるか心配」という悩みがありました。また、中高生以上では、将来への不安や自分の人間性、学校がつまらない等の不安などが出されていました。また、「バスケをしていて怪我をしたが、手術をすると1年間休まなければならないので、コーチや友達と相談している」と具体的な悩みを話してくれる子もいました。

2-5 2) 悩んでいるとき誰に相談するか

親や兄弟、仲の良い友達、先生に相談するという意見が多数ありました。また、ヒアリングを実施している施設の職員に話をするという意見もありました。

一方で、「誰にも相談しない」、「解決できそうな悩みは相談している」、「アンケートみたいなものはあったけど、特に回答はしなかった」、「言えない」等の意見も出されています。

LGBTQ の子どもは、「悩みを言っても理解してもらえない」と感じており、「親にも相談できず、誰にも相談できる状況ではない。親や学校に対する LGBTQ への理解促進が必要である」という意見がありました。

2-5 3) 子どもの相談を受け付ける区の施設や窓口で、知っているところがありますか

アシス等を実際に利用したことがあるわずかな子ども以外は、相談窓口を知っている子どもはいませんでした。ただ、半数ぐらいの子どもは、(中身は良く分からないけれど) なやミカードやパンフレットを見たことがあると答えています。特に、なやミが訪問する施設においては、なやミに会えることをとても楽しみにしている子どもがいました。「すいトリちゃんにも会いたい」という意見がありました。

2-5 4) 悩みや不安を相談する場合、どのようなところなら利用しやすいか

家や学校、家に近い喫茶店など身近なところで相談をしたいという反面、「悩んでいる子は親に携帯を止められたり、管理されているので使えないから、親などに絶対に言わないで欲しい」という意見も出されています。

区の相談窓口に対しては、「アシスとおはなしに相談したことがある。ニックネームで安心して相談できた」、「役所の執務室(机にパソコンあるところの隣の小部屋)は仰々しい。外に出てきてほしい」、「アウトリーチしてほしい。相談できる人が利用者の近くに来てほしい」、「児相の機能を区役所に入れてほしい」と多様な意見が出されました。

ネットの利用については、「電話は使わない」、「匿名で対面が良い」という反面、「ネットでその人の意見が出されていて、どんな人がちゃんと分かっていると相談しやすい」という意見もありました。

2-6 自己肯定感に関すること

2-6 1) 自分のことは好きか

ほとんどの子どもは自分の事を好きと答えています。

嫌いだという子どもからは、「自分のことは嫌い」、「自分は嫌い。自分に自信を持てない」、「他人と比較すると劣等感しかないから、比較しない」、「出来ないことがあると自分にムカつく。友達が出来て自分が出来ない時にムカつく」という意見が出されています。

2-6 2) 毎日は楽しいか

楽しいと答えている子が、多数でした。楽しくないという子からは、「あまりよくない、自分は厳しい」、「『楽しい』の意味はわからない」、「毎日は楽しくない」という意見が出されています。

2-6 3) 親や友だちなど、周りから大切にされていると思うか

大切にされているという意見が多数でした。大切にされていないという子からは、「親からはされていない。友だちからはされている」、「片方の親からはされていない。もう一方からはされている」、「施設のスタッフからは大切にされているが、自分がそれに応えられていない」という意見が出されています。

2-7 区の施策に関すること

2-7 1) 「豊島区子どもの権利条例」を知っているか、子どもの権利が守られていると思うか

子どもの権利条例を知っているかの問に対しては、知らない、なやミミやパンフレットを見たことはあるが権利については良く知らないという意見が多数でした。

子どもの権利が守られているかどうかについては、多くの子どもが守られていると答えていて、具体的には、「ホールを使おうとした時に場所を譲ってもらった」、「自分の住んでいた国(シンガポール)に比べて豊島区は楽しい場所だと思っている」という意見がありました。

一方で、権利が守られていないという子ども達からは、「髪を伸ばしたいと中学の先生に相談して、校長も対応してくれたけど、ダメだった」、「若い世代(平成 25~30 年生まれ)は権利について理解があるけど、自分の親の世代(40~50 歳)は無理だと思う」、「教職や役所の人は知っているだろうが、他の人は知らないのではないか」という意見が出されました。

2-7 2) 区役所にやって欲しいことは何か

まず、公園に対する要望が多く出され、特に「野球やサッカーができる公園を増やして欲しい」が複数出されています。さらに、「室内プレーパークを作って欲しい」、「サバイバルゲームを公園でやりたい」、「おもちゃを増やして欲しい」、「区役所の自然のあるところに、魚の種類を増やして欲しい」などという意見が出されています。

また、自分が利用している施設(ヒアリング実施施設)をもっと増やして欲しい、子ども食堂を増やして欲しいなどの意見が多く出ました。

一方で、区役所に対する意見として、「正直、役所はポンコツ。話を聞いて『そうなんですね〜』。『早く動いて欲しい』と伝えたけど、何もしてくれなかった。三年前の高校生の時に中学生の妹のことを相談した」、「今、ストレス多く、人と話したいが、中身の無い役所の人と話したくはない。心理師さんと話ができるならいいが、常時いるわけではない」、「子ども若者課の人は話しやすい人が多いが、他の課の人の対応がかなり事務的で流れ作業になっている」と、区の対応に対する意見が出ています。

また、LGBTQ に対しては、LGBTQ の子ども・若者も安全な環境で大人になるために、学校だけでなく、各課の計画に LGBTQ の施策を取り入れて欲しい。海外ルーツや障害と同じように、区の施策の柱立てにして全庁的に取り組んで欲しいという意見が出されています。

2-7 3) やってみたいことはなにか

それぞれの子ども達が、自分の趣味や将来の夢について話をしてくれました。「プレーパークを作りたい」、「ちゃんとしたごみ拾いをしたい」、「この世のものを買い取って貧しい人にあげる」、「中学生が外と交流できる機会が欲しい」、「人間性を否定されてきたが、これまで散々言われてきたけど、それを何とかして、言ってきた人たちの鼻をへし折ってやりたい」等の意見が出されました。